

## 博士学位論文審査結果の概要

|         |  |
|---------|--|
| ふりがな    | そん こう  |
| 氏名      | 孫 皎  |
| 学位の種類   | 博士（看護学）  |
| 学位記番号   | 博第5号   |
| 学位授与年月日 | 平成22年3月13日   |
| 学位論文題目  | 継続的な太極拳の実施が脳機能改善に与える効果<br>—中国における無作為割付介入研究による認知症予防プログラムの試み—        |
| 審査委員    | 主査 石川県立看護大学 教授 川島和代<br>副査 石川県立看護大学 教授 佐々木順子<br>副査 石川県立看護大学 教授 今井美和 |

### 審査結果の概要

平成22年1月19日に博士学位論文審査会を開催した。申請者は研究の概要を40分程度で説明し、その後30分ほど質疑を行った。審査委員3名で審議した結果、全員一致で本研究は本学の博士学位論文に値するものと判断した。判断した理由は次のとおりである。

本研究は、中国において実施された60歳以上高齢者の集団への継続的な太極拳実施を組み入れた認知症予防活動が、高齢者の脳機能改善に与える効果を明らかにした介入研究である。日常生活が脳機能に及ぼすさまざまな影響を除外するために、150人を太極拳実施の有無によって2群に分ける無作為割付比較試験（RCT）で行っている。実施した90分の認知症予防プログラムに認知症への理解を促進する講話や話し合いを加えることによって、介入群のみならず対照群の人々の関心を高める工夫がされており、結果的に92.0%の高い補足率を得ている。介入に際して、本研究の意義を理解した中国の研究協力者を組織し、訓練し、結果を導き出すために細心の努力を払って実施した。評価指標には国際的に信頼性・妥当性が検証されたツールを用い、その多くにおいて対照群の変化よりも介入群に有意な変化が得られたことを認めていた。倫理的な配慮にもとづいた対象者の選定から6ヶ月間の実施の過程を、研究者が中心となって注意深く行っていたことが生データや分析結果より明らかであった。また、得られた結果に対する仮説の検証の観点、多くの研究結果との比較の観点から論理的な考察を行い、本研究の看護活動への適用についても言及している。

本研究結果により、認知症予防プログラムの作成時に、非薬物療法の一つとして太極拳を取り入れることの根拠として活用できるデータを提示できたと考える。中国においては、太極拳が国の文化として定着・普及しており、人々の日常の中にも浸透している。身近な運動に脳機能改善という新たな視点を注いだのは非常に独創的である。地域高齢者のセルフケア能力を維持し、認知症予防活動の普及を支援する看護活動を展開する上で、その国、地域の文化・社会資源を活用する取り組みにさらなる根拠を与える結果を提示したとも考えられる。本学生が、今後、中国における地域看護学の礎を築く活動を推進していく人材となることを期待する。